

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	KI	学部・学科	データサイエンス学部
学 年	3 年	派遣国	アメリカ
派遣大学	セントクラウド州立大学		
期 間	2025 年 8 月 18 日～ 年 5 月 13 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()				
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()				
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○				
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所 ◎
	キッチン	◎	冷暖房	△	冷蔵庫
滞在費	約 (12 万) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃				
移動	(空港から車) で、約 (1 時間半) 分 *大学までの所要時間と移動方法				

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	3 万円	食堂で一日三回及び週末の夜に自炊
学用品購入費	1250 円	英語の授業のテキスト(総額 2 万円)
交通費	9000 円	Groome Transportation の 1 回当たりの金額
交際費	0 円	
その他	1250 円	楽譜プリント代など(総額 1 万円)

合計

5 万円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

特に目立って治安の悪いところはないが、夜中にコンビニ(ガステーション)に向かうと麻薬の売人に遭遇することがある、

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	9 ヶ月間	保険料	(93080) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	International Student Health Insurance		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(25 万) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ミネソタ州セントクラウド）

基本的には危険に感じるようなことはない。しかし真夜中にダウンタウンの方面に出かけると麻薬の売人やホームレスなどが混在するようになるため一人で夜中に出歩くことは避けた方がいい。スーパーやレストランなどは車かバスでアクセス可能。最寄りのスーパーは Coborn's で、大学から徒歩で 30 分ほどの場所にある。冬には気温がマイナス 20℃を下回ることもあるため防寒対策をしっかりとる必要がある。近くの川は凍る。

【学業編】

1. 大学情報

大学	セントクラウド州立大学	所在地	ミネソタ州セントクラウド
最寄空港	ミネアポリス国際空港	空港からの距離	バスで1時間半
空港⇄大学	(バス (Groome transportation か Jefferson line)) *移動手段		
学生数	3000	留学生数	200
学部	経済学部 看護学部 理学部 リベラルアーツ学部 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	理学部コンピューターサイエンス学科 リベラルアーツ学部音楽科ピアノ専攻 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (8)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	CSCI201 (Computer Science 1)	accompanying	CSCI201 MUSP210(Piano)		CSCI201
午後	EAP150(Cultural Ori Intl Student)	EAP101(Listening and Speaking) MUSP162(Concert Choir) EAP102(Reading and Writing I)		EAP101 MUSP162 EAP102	

② (1)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		CSCI220(Computer Architecture I) STAT353(Stat Method I for Engineer) MUSP212(Musicianship 2)	MUSP210(Piano)	CSCI220 STAT353 MUSP212	
午後	Wind ensemble CSCI310(Intro to Operating Systems)	CSCI220	Wind ensemble CSCI310		Wind ensemble CSCI310

3. 履修内容

科目	CSCI 201 01 Computer Science 1		
履修期間	秋学期	単位数	4.0
授業内容／形態	C++を主にプログラミングの基礎を学ぶ。毎週の課題、中間試験及び、最終試験により評価。火曜日と木曜日に希望者は大学院生から課題についての指導を受けることができる。		
成績	B+		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	EAP 150 02 Cultural Ori Intl Student		
履修期間	秋学期	単位数	3.0
授業内容／形態	アメリカの文化をベースに生徒同士の文化交換を行う、一斉授業。		
成績	C+		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	EAP 101 01 Listening and Speaking		
履修期間	秋学期	単位数	4.0
授業内容／形態	教科書を使ってグループワークをする、またときによりプレゼンテーションをして評価を行う。		
成績	A-		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	EAP 102 02 Reading and Writing I		
履修期間	秋学期	単位数	4.0
授業内容／形態	教科書の内容に沿った課題及び授業進行。主に引用の仕方や APA スタイルでの記入の方法など基礎的な英語での文章の書き方を学ぶ。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	MUSP 210 02 Piano		
履修期間	秋、春学期	単位数	2.0
授業内容／形態	ピアノの個別レッスン、毎週水曜日に一時間対面でレッスンを受けることができる。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	MUSP 162 01 Concert Choir		
履修期間	秋、春学期	単位数	1.0
授業内容／形態	火曜日と木曜日に行われる合唱の授業。学期の最後に教会で演奏会を実施。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	MUSM 212 01 Musicianship 2		
履修期間	春学期	単位数	2.0
授業内容／形態	楽典の授業。主にリズム、ソルフェージュなどを行う。演奏を録画し課題提出。課題点、調音の小テスト、最終試験により評価。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	CSCI 220 01 Computer Architecture I		
履修期間	春学期	単位数	4.0
授業内容／形態	コンピュータ内部の基礎的な仕組みを学ぶ。毎週火、木曜日に講義を聞き火曜日に実践授業がある。ラボのレポート毎週の小テスト、最終試験（紙形式）により評価される。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	CSCI 310 01 Intro to Operating Systems		
履修期間	春学期	単位数	3.0
授業内容／形態	linux の扱い方を主にオペレーティングシステムの基礎を学ぶ。グループワークで課題提出をし、毎授業後のクイズ、グループワーク、最終試験（オンライン）で評価。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	STAT 353 01 Stat Method I for Engineer		
履修期間	春学期	単位数	3.0
授業内容／形態	統計検定準 1 級までのデータサイエンスにおいて不可欠な統計知識を学ぶ。3 回のプロジェクト、2 回の間試験、そして最終試験により評価。		
成績	B+		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

この留学を通じて、専攻していたコンピューターサイエンスだけでなく、ピアノを通じて多様な経験をすることができ、多方面で国際的な視野が広がったと感じている。コンピューターサイエンスでは発展した内容を学ぶこともでき、また、日本で習った知識を違う切り口で復習できることもあった。特に統計は、日本では深く学べていなくて知識の定着が必要だと考えていた分野であり、しっかり学べたことは大きな収穫だった。後期のコンピューターアーキテクチャの授業では、前期に学んだ計算機概論を復習しつつ、さらに深い内容まで学ぶことができ、データサイエンス分野の理解を深めることができた。

音楽面では、アメリカでは日本と異なり総合大学に音楽科があり学生に門戸が開かれていたため履修できたが、日本ではなかなか経験できなかった伴奏、楽典、合唱のクラスなどで音楽の授業を学ぶことができた。特にピアノの個人授業ではピアノとの向き合い方や自分にとっての音楽の位置づけを明確にすることができた。このことはこの留学でつかめた最大の収穫かもしれない。

人間関係では、最初のルームメイトは数名の友人を部屋に滞在させて深夜まで騒ぐ日が続き大変だったが、その経験を通じて、多文化との共生の難しさを実感できた。また、寮の共同スペースや食堂でも、人種や文化による行動の違いに触れ、カルチャーショックの本当の意味を知ったように感じたが、それも含めて貴重な経験になったと思う。

大学内では音楽を通じて友人に恵まれ、授業外でも友人の合唱や吹奏楽のピアノ伴奏を担当したり、学生で企画したミュージカルに関わったりと充実した音楽体験をすることができた。また共通のプロジェクトを一緒に進行することで人とのつながりが生まれることを実感できた。授業以外でも毎週教会に通うなど、自然な形で現地の方々と関わることを心掛けていた。現地の方々と学生との交流によりリスニング能力を高めることもできたと思う。食生活についても、日本との違いに驚くことが多く、特に出汁を使わずスパイスで味を決める料理文化は新鮮だった。無制限の食事プランのおかげで困ることはなかったが、文化の違い、多様性を強く感じることもできた。

総じて、すべてを自分で管理し、責任を持って行動することの大切さを学ぶことができた。計画力や自己管理能力が鍛えられ、1年間の留学をやり遂げたことは自信につながった。この経験を忘れずに、日本でも引き続き成長していきたい。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

この留学で得た経験を、いろいろな面で今後の学業や将来のキャリアに活かしていきたい。コンピューターサイエンス分野では、英語で専門的な分析や応用を経験した。これを土台として、将来的にはデータサイエンスや AI 分野で活躍できるよう努力を続けたいと考えている。また、音楽面でも自分の強みとしてピアノを活かし、人とのつながりや地域活動に貢献できると感じた。特に、共通のプロジェクトを通じて人間関係を築く力は、国際的なチームでの仕事や異文化交流の場でも役立つと実感した。英語という柔軟性の高い言語で様々な人種と交流を続けてきたことは、多様化する現在の社会においてとても役に立つと考えている。さらに、すべてを自己管理し、責任を持って行動するという姿勢は、社会に出た後も重要な基礎になると考える。この留学で培った柔軟性と主体性をもとに、どんな環境でも適応しそのコミュニティの発展に寄与できるような人材になっていきたい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

自分の場合は、留学の主な目的はコンピューターサイエンスがアメリカの大学ではどのように教えられているかを知ること、英語力、特にリスニングとスピーキングの向上、そして自己管理能力の強化だった。留学中は英語漬けの環境で暮らすことが大切だと考えていたこともあり、現地の音楽学部 of 学生たちと日々行動を共にして、日本人と話す機会はほとんどなかった。来学期からはこの大学に音楽学部がなくなると聞いているが、合唱やバンド、吹奏楽といった演奏系の授業は継続されるらしい。自分はピアノが弾けることを活かして、合唱の伴奏やミュージカルのピアノ演奏など授業外の活動にも積極的に関わったが、演奏の際は「コンサートブラック」と呼ばれる黒一色の衣装を着ることが多く持って行って良かったと思った。また、持って行った黒の革靴も重宝した。スポーツチームやチアリーディングに参加して現地の人と関わっていた人もいた。これから留学に行く人には、授業だけで満足せず、自分から動いて人とつながる場を見つけてほしい。最初は勇気がいるが、その一歩が留学を何倍にも価値あるものにしてくれると思う。